

2/13(日) まいど! 倫理号です。ソフビもベンでもあつて、一言書いてみる  
結果は違ひかも知れませんが、ソフビの日へ。必ずや答へは良方向へ!

今週の

倫理

2月のテーマ | 先手の実践

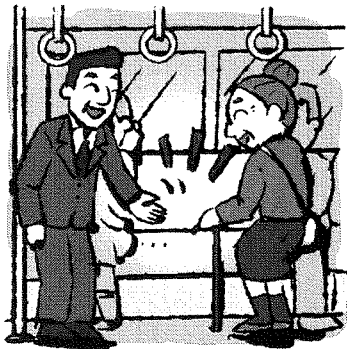
幸七運ぶアホ一鳥

2022. 2. 12~2. 18

1268号

先手とは、碁・将棋において「後手に対し、先に手をおろす方」を指します。「先手を打つ」とは、「機先を制して、攻撃の優位に立つこと」という意味で、「先手必勝」「先手必敗」を制すは同種の言葉でしょう。純粹倫理では、実践の重要性を説きます。今週は、自ら進んで実践した結果、隣人との揉め事が解消し、関係が改善した事例をご紹介します。

ある都市で乾物屋を営んでいるSさん。その店は先代である父親が始め、後にSさんが手伝うようになりました。父子による商売は順調でしたが、土地が狭いため駐車スペースが足りないのが唯一の悩みでした。そんな時、隣の敷地で小売業を営むAさんから、「今度、別の場所にコンビニエンスストアを開業します。現在の店は閉めるので、よかつたら、この土地を買っていただけませんか?」と、土地の購入を勧められ、とんとん拍子で交渉がまとまりました。ところが、契約まであと一週間に迫った時、突然Aさんから電話がありました。「あと五百万円ほど金額を上乗せしたい」との申し出でした。事情を伺うと、開店に予想以上のお金が掛かるからとの理由でした。「もしかしたら価格を吊り上げるための言い訳なのかもしれない」と思い、「急にそんなことを言うなら、お断りします」と電話を切ってしまいました。この一件で、土地購入の話は流れてしまったのです。しばらくして、少し離れた所に月極めの駐車場ができ、敷台分を契約することで駐



## 勇気を出して 自ら歩み寄ろう

車スペースの問題は解決しましたが、Aさんとは喧嘩別れをしたままでした。

その後、Sさんは倫理法人会に入会して純粹倫理を学ぶうちに、Aさんとのやりとりが気になるようになりました。(家庭も仕事も順調。しかし、隣人と不仲のままではいざらうか?でも、いきなり謝罪するのも気まずい...)と思うようになったのです。

そこで、Aさんが経営する店で買い物をすることから始めました。最初、Sさんの姿を見たAさんは大変驚いている様子でした。しかし、数カ月後には自然と挨拶が交わされるようになりました。

そして二年ほど経ったある日、店でAさんが商品の陳列をしていました。(今なら謝罪できるかもしれない)と思い、「あの時は怒ってしまい、申し訳ありませんでした」と謝りました。するとAさんは、「いいのよ。こちらが悪かったわ」と言ってくれ、仲直りすることができたのです。

それから数カ月後、Aさんが訪ねてきました。「家族で相談し、Sさんが活用してくれるなら、ぜひ土地を売却したいと思えます。いかがですか?」との申し出でした。それも、以前提示された金額よりも下げるという好条件でした。すぐに話がまとまり、土地を購入する運びとなったのです。

Sさんは、自分の気持ちと素直に向き合い、先んじて動いたことで、隣人との関係が好転しました。この事例は、勇気を持って一歩踏み出し、自ら人に歩み寄ることの大切さを教えてくれています。